

東京からこんには

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さの可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

南北の`行き来、改善に期待

鹿島建設株式会社
(仮称)芝浦グループ銀座ビル新築工事事務局長
朝比奈由典さん

多くの有名建築手掛ける

「モノを造るのが何より好き」という朝比奈さん。大学の建築学科を卒業すると、日本初の超高層ビル「霞が関ビル」や静岡市役所などを担った鹿島建設に入社。実家が土木建築業を営んでいたことも気持ちを後押しした。

中学、高校、大学時代と、よく家業を手伝った。「山奥の砂防工事の仕事が多かったですね」。一生懸命仕事に打ち込む父の姿を誇りに感じたという。「ゼネコンへの就職はほぼ自然の成り行きみたいなのでした」。

入社以来、都内の大手企業本社ビルや大型商業施設などの建設を担当。20を越す建物を手掛けた。今年4月、現職に。「いずれも立派な建物ばかりで愛着がある」と語り、中でも江戸東京博物館と恵比寿ガーデンプレイス、ミキモト銀座本店は格別だという。工事課長、現場所長と昇進し、立場や業務は変わっていくが、「家族から、お父さんのつくった建物へ行ってきたわよ、なんて言われるとやっぱり、うれしいですね」と愛好を崩す。

駅前 景観悪化を懸念

中心部を国道1号と東海道本

線・新幹線が東西に走る静岡市。二つの大動脈は静岡の強みですが、同時に市の南北を分断している気が子供の頃からしていました。いい、「南北の行き来がもっとスムーズになれば、北側に住む人も南側の人も、全静岡の魅力を感じながら総力戦を展開できるのではないかと気がします。派手なインフラ整備をしなくても、例えばバス路線を増やすとか、何かやれることがあると思います」と期待感をにじませる。

近頃気になっているのは、JR静岡駅前の景観。「二等地の呉服町通りの歩道に上品とは言えない看板が出ていたり、県庁所在地の表玄関としてはちよつと寂しい気持ちになります。景観の悪化はまちの衰退にもつながりかねない」と懸念。日本を代表する繁華街、東京銀座で長年建築にかかわってきた経験から「表玄関の景観のあるべき姿をきちつと示すべきではないでしょうか」と指摘する。

「呉服町通りの街並みはわれわれの誇りです。老舗の旦那衆が頑張っている今のうちに、財政的支援も含め行政がテコ入れしてほしいですね」。

(文:長田義明、写真提供:朝比奈さん)



Yoshinori Asahina

静岡市葵区生まれ。県立静岡高校卒業。東京理科大学工学部建築学科卒業。1986年、鹿島建設株式会社入社。東京建築支店配属、工事課長、副所長を経て、2011年、工事事務局長、ミキモト本店ビル新築工事事務局長などを歴任。現在(仮称)芝浦グループ銀座ビル新築工事事務局長。57歳。工事事務局長としてミキモト本店のほか、東洋熱工業本社ビル、銀座ヨシノヤ本店などを手掛けた。一級建築士、一級建築施工管理技士、コンクリート技士、労働安全コンサルタントなどの資格を持つ。
<https://www.kajima.co.jp/>